

フライングディスクを直線的に飛ばす 理想のフォームについて

東京情報大学 総合情報学部
情報文化学科 石井ゼミ4年
C06107 田中 涼三郎

【研究目的】

フライングディスク¹⁾を直線的に飛ばす理想のフォームに必要な動作とは何であるか直線的に飛ばなかったフォームと比較し分析した。今回は被験者の肘角度とリリース時の動作について研究した。

1)フライングディスクとはフリスビーの正式名称。

被験者データ

	身長	体重	経験歴
被験者A	182cm	85kg	無し

【結果1】

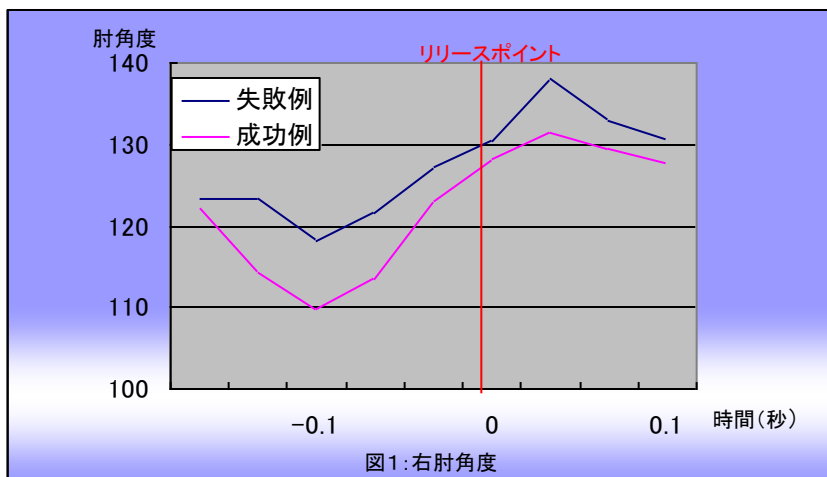
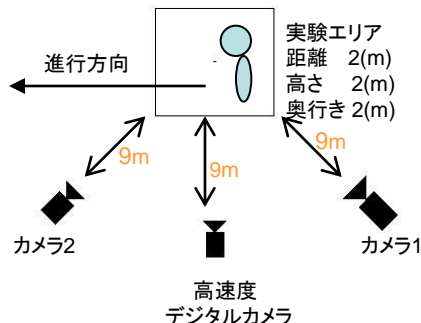


図1から失敗例は最大屈曲時が約118度であり、最大伸展時はリリース直後の約138度であった。この時の角度差は約20度だった。
成功例の最大屈曲時は110であり、最大伸展時はリリース直後の約131度であった。この時の角度差は約21度であった。
最大屈曲時と最大伸展時の差はほぼ同じで同じ様なパターンになっている。
しかし、成功例の方が、最大屈曲が大きくリリース時も比較的肘角度が小さいまま投射している。

【研究方法】

ビデオカメラ2台と高速度デジタルカメラ1台を使い被験者の左斜め前、横、左斜め後ろから撮影。



【結果2】

連続写真



失敗例



進行方向



成功例

進行方向

【結果3】



失敗例

成功例

横の画像はリリースの瞬間で失敗例に比べ成功例の方がディスクがやや斜めから投射されている。

上の連続写真から、成功例は失敗例に比べ右肘を先行させ前腕が時間的に遅れて動作するいわゆる「二重振り子」の状態にあった。